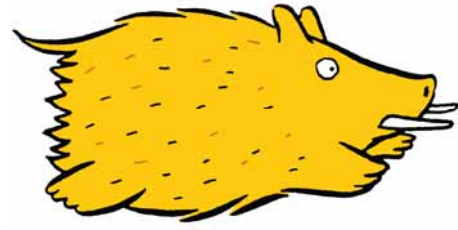




あれ！トマンン隊じゃあ無いのか

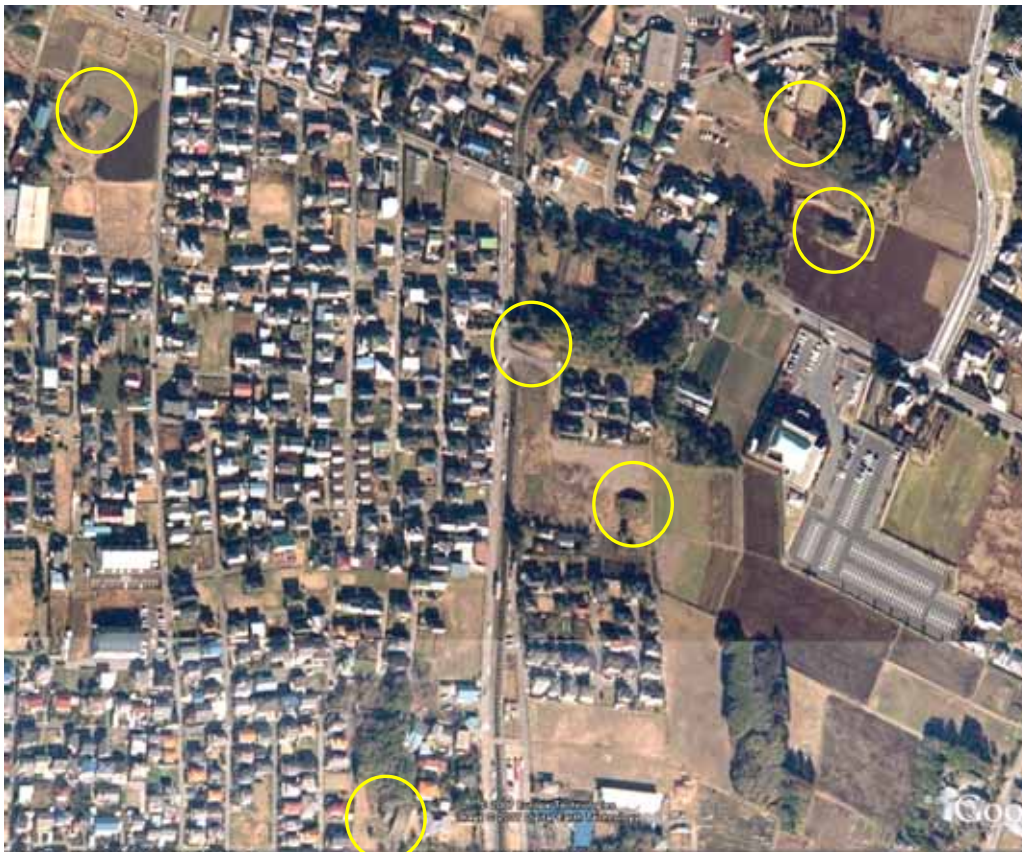


茂原掩体壕

by うさお

さて、友人のK君が千葉にスローライフを満喫するため、家を建て暮らしているということを知りました。

千葉は三浦半島と並ぶ戦争遺跡の豊富なところ。戦争マニアのK君の選びそうなところ。戦争遺跡の中から茂原の掩蔽壕を見に行くことにしました。



掩蔽壕と言わず掩体壕と言うのが正式名称らしい。茂原には航空隊があった関係から随所に掩体壕があったようだ。

現存するものも全部で13箇所と聞いていたが、茂原市は6箇所を観光名所にしていく。

道路端には看板が出ておりスルスルと誘導してくれます。



これは掩体壕 A(地図参照)です。道路の脇にありますので、すぐ見つかります。

上部は草地で覆われていますが結構コンクリートの躯体がはっきり出てしまっています。



中はこんな風。

零式艦上戦闘機なんか収まるのかなあ。だいぶ手狭だと思います。

床はだいぶ埋まっています。



ここは掩体壕 Eのポイント、このように壕の上には樹木が覆いかぶさり、上空からでは察知できないようにカバーされています。

でも滑走路は草を生やしてはならないので、上空からだ判っちゃうよなあ。



何やら長閑に一休みをしている Cacco。
ここは何処？



ここでした。
この掩体壕は土饅頭のように丸い小山になっていて、陸の島みたいでした。



掩体壕 E から南に離れたところにも掩体壕 F があります。畑のど真ん中なので足を踏み入ることになるので気を使います。

こんな撮り方をすると、丸田祥三のようです。

もちろん掩体壕の中は農機具や畑の草や収穫物の塵類です。



バス通り側から見るとこんな感じです。本当に山のような感じで見た目は完璧に隠されています。

たぶんこの延長線上に滑走路があったはず。そんな思いを込めて撮影してみました。



掩体壕Dです。ここはすっかり土は剥ぎ取られ、アスファルトの防水層が現れています。

妻側の壁は面戸板が張られ、まるで納屋のようでした。

納屋でしたが…。



夏草の 青に染まるや
 掩体壕
 すずるにぞ 蝉静まりて
 夏やみて

そんな句が聞こえて
 来ます。(うさおにだけ
 ね)

帝国の遺産がこんな
 風に使われるなんて。
 戦争マニアのK君が聞
 いたら怒りますよ。



後ろの雑木林にフィ
 ッティングしている掩体
 壕Cは、民家の庭にあ
 ります。車2台とトラク
 ター1台の格納庫(駐車
 場)になっていました。
 完全に私物化です。

こんな駐車場ならう
 さおも欲しいぞ。



どの掩体壕も同じよ
 うな造りでしたが、こ
 こは今までのものと比
 べると、ふた周りぐら
 い大きく、戦闘機より
 大きな機体を納めた
 のかも知れない。

他人の庭だって言う
 のに、づかづか入っ
 ちゃいました。

え～Cacco ちゃいま
 したね。



この掩体壕 B は今回の中で最も見つけにくかったもの。夏は竹林の陰に隠れていて、道路を走っただけでは見つけることは出来ない。

草息れでむっとする草叢を掻き分けてやっと辿りつく。尤も入ったのは Cacco だったんだけどね。



ここは人もめったに入らな来ないので、掩体壕の中まで草が密生している。

隠れ家とするならここなのだが、蛇や百足がいそうでうさおには無理かも。

さて、うさお達はどのような順で全部の掩体壕を廻ったのでしょうか？



K君の家



K君の家は海に面した小高い丘の上に建っている。遠くから見てははっきり識別できるのは、屋上にある電波塔であろう。

K君は民間人でありながら対某国に対する防諜に従事している。見よ、この無線機の数々を。

木の香りのする家は電探を受けないように、内装も電波的にはステルスの木造家屋だ。



ここが周囲の敵を索偵する司令塔です。(嘘です。ここでお昼を食べたり、流星群を見たりする処です)

外房が一望できる、羨ましい環境でした。



ここでした、本当の司令塔は…。(嘘です。アマチュア無線のアンテナ塔です。)

彼はトリプル・コールを持っています。トリプル・コールとは、J 8CCCのように3つのアルファベットが重なるもので、大変珍しいものです。



K君のお勧めで、近所の電波探知機(レーダー)の跡を見に行くことになりました。大東崎という灯台のあるところでした。太平洋を見渡すとても景色の良いところです。



レーダーの軌跡が残っていましたが、その幾つかは崩壊して崖から落ち海中に没したようです。

この辺りの台地は徐々に侵食されていることを聞いたことがあるような。はて？

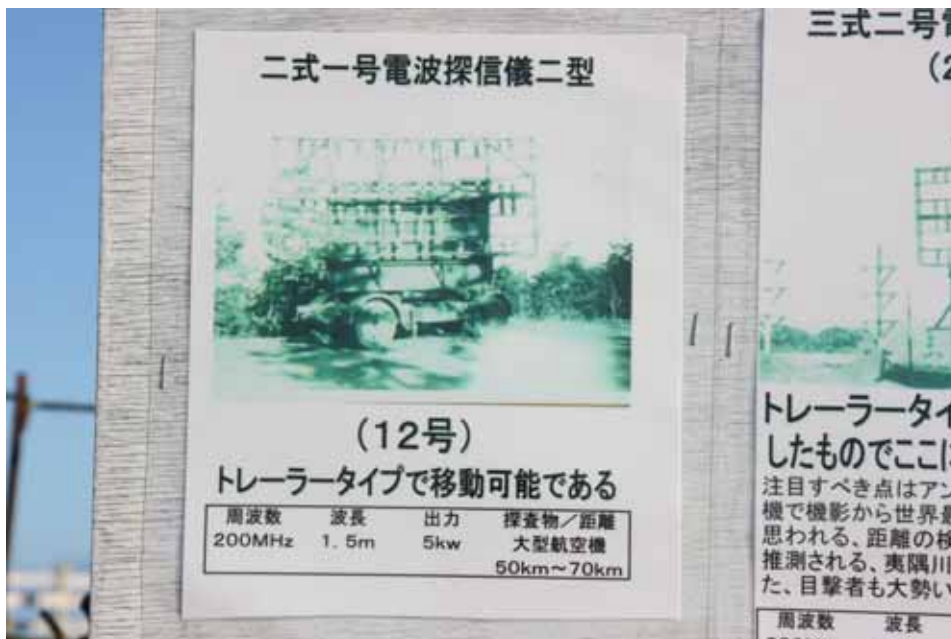


何と機関銃座の跡がありました。しかし、単なる小山でコンクリートや鋼材の破片すらも残っていませんでした。

ここで米爆撃隊を地上から迎撃しようとしたのでしょうか。ってことは高射砲跡だっただけありそうだな。



大東崎の灯台です。
う～ん風格ある。夕闇が
近づく時でもあり、なか
なかのものでした。



さてその展望台に飾
られていた昔の写真は
興味深いものでした。
電波探査機の研究所
がここにあったよう
です。

研究の成果は、「この
程度の索敵じゃ戦争に
勝てないなあ」と感じら
れる程度の技術でし
た。



昭和 35 年当時の灯台
はこんな風でした。たぶ
ん戦前のもので、うさお
的にはこのままの姿で残
しておいて欲しかった
な。

この電探の研究所や
灯台については、いつ
か章を変えてご報告い
たします。

さて、おらが方の掩体壕だが、最も近く最も有名なのが、野島公園にある掩体壕だ。ここにはバーベキュー場やキャンプ場があり、子供がまだ小さいときはTICAさん達ともよく出かけたところ。



今日も家族連れで賑わっていました。島に入ると海苔ひびの柵が並ぶ向こうに八景島が見えます。かつては無かった人工島です。

野島公園は小さな島で、その中央に小高い山がある。標高にして2~30mか。とにかくも海岸のほとりを巡ってみました。

そこには茂原で見た掩体壕とは一線を画する、とても大きな掩体壕が出現しました。(いや、以前にもバーベキューの時に見てるんですがね)

掩体壕の入り口は見えないようにしっかりと、頑丈なフェンスで囲われています。それでもディ・キャンプに来ている若い者はフェンスを乗り越えて遊びに興じていました。いいのか、若者。





それにしてもでかい。一説には式式大型飛行艇が格納されるはずだったとも言われているが、どうやら作っただけで使われなかったようです。

式式大型飛行艇とは全長28m、全幅38m、高さ9mの代物。こんなに大きいものは、とてもここには格納できそうにも無い。だから使われなかったのかな。

それに掩体壕の高さは9mもあるのかな。掩体壕、掩体壕といっていると、「西太后」って聞こえてくるから不思議だ。



さて、この島には売店と言うものが存在しない。Caccoは周囲でバーベキューをしている人たちが、何か呉れないかなあと期待を込めた目で見っていたが、誰も何も呉れない。ライ隊員が居れば何か呉れたのに！とは、Caccoの言葉。犬に呉れたものを横取りする気だったのか……？



島を一廻りしてみた。先ほどの海側のちょうど真裏に当たるところに、掩体壕の反対側が見えてくる。先ほどの入り口の形状とは少し異なり、茂原の掩体壕によく似ている。ここで疑問。

戦時中には掩体壕の専門の設計者と言うのが居たの

だろうか？昔は軍部があったからね。

矢澤さんは建設会社にお勤めの構造設計の人だと思う。如何だろう、掩体壕を設計しろと言われてたらどういう設計をされるのかな。最近の爆弾は性能が上がっているので実験が必要なのかな。





ここもフェンスで囲まれている。年に一度は一般に開放すべきだし、戦争遺跡として整備しておく必要もあると思うんだがな。



で、この掩体壕の真上にある小山が高射砲の陣地だったそう。上ってみることにしたのだが、これが結構急な坂道だったのだ。途中でダウンしようかと思っちゃいました。坂道の途中のどんぐりが可愛かった。



ぜいぜいしながら登りきると開けたところに UFO のような展望台があります。この展望台の基礎が円形なのは、ここがかつての高射砲の台座なのだとまことしやかに言う人がいます。(うさおですけど…披露山公園の経験から…)



ここから磯子から三浦半島まで見渡すことができます。この野島公園には伊藤博文の別邸があったとされているところで、今回は準備が足らず見送りです。

茂原の機関銃台座跡と同様の、えっ、ここが遺跡？って位の素っ気無さです。

野島には稲荷社が祭られており、日出彦さんが以前報告されていたような不可思議なコンコン様が沢山並んでいました。

ライ隊員にそっくりなコンコン様も。

